

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

大型連休後も依然として日本の主要港では混雑が続いているようです。今後も、来年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、東京港を中心に様々な資材の輸入が増加することが予測されています。寄港する本船は大型化していますが、コンテナヤードのスペースは不足しており、増加する貨物に対応できていないのが現状です。このため、引き続きコンテナの引き取りについても混雑が予測されています。

今後の海上運賃については強含みで、一部の船会社では7月1日付で諸チャージの値上げを通知しています。また2020年1月から重油に含まれる硫黄に対して規制が強化される予定ですが、一部の船会社では2019年秋を目途に価格が高い低硫黄燃料の使用を開始、もしくは本船にスクラバー装置（重油に含まれる硫黄を取り除く装置）を据え付けることで規制に対応する動きをしており、2019年度第3四半期より新たなチャージとして Low Sulphur Fuel Compliance Charge (LSFCC)が導入される予定です。

ビートパルプ

【米国】

1) 新穀作付

冬場の寒波および大雪、春先からは継続的な降雨と冷涼な天候は、トウモロコシと同様にビートの作付けにも大きな遅れをもたらしており、作付け後の発芽や生育の遅れも懸念されているところでは、

全米の作付面積は3月の段階で前年比15,000エーカーほど増加を見込んでいましたが、現時点では27,000エーカーの増加となる見込みです。当初の15,000エーカーの増加は、昨年の多雨多湿の環境下で作付けできなかった地域が、作付けを再開した数字で、直近の増加分は、作付けの遅れによる単収・生産量減少をカバーするための措置と見られています。このため、昨年に比べ単純に27,000エーカーが増加したと捉えることはできない状況です。

日本向けの主力産地であるミネソタ州とノースダコタ州の作付の進捗はますますと見られていますが、引き続き雨が多く、冷涼な天候が予想されていることから、今後の発芽や生育に及ぼす影響を注視する必要があります。順調な生育を促すために気温の上昇が望まれるところでは、

2)旧穀生産

2018年クロープの生産は最も遅い地域でも6月上旬に終了の予定です。このところの冷涼な天候は新穀の作付や生育に悪い影響を及ぼしていますが、旧穀の原料保管の状態を良好に保つ意味では好都合となり、例年見られる気温上昇に伴う原料品質の劣化、廃棄も見られず、極めて良好な状況のままシーズンを終えようとしています。

アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは、例年であれば5月初旬から1番刈の収穫が開始されますが、今年は冷涼な気候と降雨の影響により、収穫のスケジュールに約20日の遅れが発生しています。大部分の生産者は5月下旬から急ピッチで収穫を進めています。

1番刈の収穫は後半に差し掛かっているところですが、各サプライヤーとも本格的な買い付けは実施しておらず、分析値も出そろっていないため、まだ品質や作柄全般について評価しきれない状況です。しかしながら、国内外からのアルファルファへの需要が旺盛な中、生産農家の高値への期待は強く、産地相場は上昇すると予想されています。

また、他の地域と同様、ワシントン州でも労働者の賃金の上昇や人手不足が年々深刻化しています。この影響で、人件費を圧縮でき且つ降雨被害のリスクを低減できるビッグボールへの生産にシフトしており、3タイ原料の集荷は一層厳しさを増しているところです。

オレゴン州

オレゴン州南部クラマスフォールズでは、昨年オレゴン州知事が干ばつ宣言を出すほど水不足が深刻化しましたが、今年のカスケード山脈の積雪量は潤沢であり、産地では断続的に降雨もあるため、水不足に陥る心配はなさそうです。1番刈の刈り取りは例年通り6月上旬からのスタートとなりそうです。また、当地クラマスフォールズでも3タイボールの生産割合が減少し、ビッグボールの割合が増えている傾向にあります。

オレゴン州中部クリスマスバレーでは、旧穀の在庫は米国内向けに販売され、余剰在庫はほぼありません。今年の1番刈は例年通り6月中旬からのスタートとなりそうです。クラマスフォールズ同様、クリスマスバレーでもビッグボールの生産割合が増えており、3タイボールの確保は年々厳しくなっています。

カリフォルニア州

南部インペリアルバレーでは、春先の冷涼な天候から転じて、ここ1か月は気温が急激に上昇したため、アルファルファの分析値が低下し、産地相場は若干軟化してきています。しかしながら、引き続きサウジアラビアからの需要は堅調で、相場を支えている状況です。

ここ数年、輸出向けはUAEや中国に加えサウジアラビアも加わり、輸出需要は顕著に増加しており、米国内における需要も安定しています。このため、生産農家はより多くの販売

先を選択することが可能となり、産地相場が高止まりする要因となっており、安価なアルファルファの確保が年々難しくなっています。

北部カリフォルニアでは、アルファルファ 1 番刈の収穫は概ね終了していますが、収穫時期に降雨があったため、雨当たり品や刈遅れ品の発生が増えそうです。

当地域では牧草の生産に比べ灌漑水の使用量が少なく、且つ世界的な需要も高まり価格が安定しているアーモンドの作付が毎年増加しており、結果、アルファルファの作付面積が大きく減少しています。

ネバダ州・ユタ州

ネバダ州西部のイエリントン周辺では1番刈の収穫は20%ほどが終了していますが、一部の地域で降雨の被害が発生しているようです。ネバダ州のその他の地域では、多くの生産者は5月下旬に刈り取りを開始しています。産地相場は今のところ18年産と同レベルで推移しているようです。

ユタ州では、5月中旬から約2週間にわたり降雨が続き、5月としては過去最高レベルの雨量となりました。このため、多くの圃場で収穫作業が遅れ気味となっています。

米国産チモシー

今年のチモシーは気候に恵まれており、成育は良好です。コロンビアベースン南部では一部の生産者が刈り取りを開始しています。地域によっては、6月10日頃から刈り取りが本格的してくると予想されています。多くの生産者は刈り取り準備を進めていますが、収穫スケジュールが大きく遅れているアルファルファの1番刈と収穫作業の時期が重なってしまうことで、一部では刈り取り適期を逸してしまうことが懸念されています。



US 産チモシー圃場 (6月4日撮影 ワシントン州コロンビアベースン南部)

カナダ産チモシー

アルバータ州南部レスブリッジ地区の作付面積は昨年比5－10%程度増加しています。昨年までの作付面積の増加は、ここ数年の産地相場の高騰を受けて、既存の生産者がチモシーの作付を増やしてきたことが大きな要因でした。一方、19年産からは新たにチモシーの生産に取り組む生産者が出てきており、作付面積の増加に寄与しているようです。

アルバータ州中部クレモナ地区でもチモシーの作付面積は5%程度の増加となっています。チモシーと競合する他作物の相場が不安定である一方、安定的に高値で取引されているチモシーは生産者にとって魅力ある作物となっていることから若干の作付増となっています。

両産地ともに、5月は例年よりも冷涼な気候で推移したものの、適度な降雨もあり、チモシーの生育状況としては悪くない環境となっています。現時点では、チモシーの生育は例年に比べ、1週間程度遅れているようですが、6月の気候次第で生育状況も巻き返してくることが期待され、南部レスブリッジ地区では、例年通り7月上旬から1番刈の収穫作業が始まる見込みです。

韓国および日本からの需要は堅調に推移しており、産地では繰越在庫がないなかで新穀シーズンに突入していく見込みです。

スーダングラス

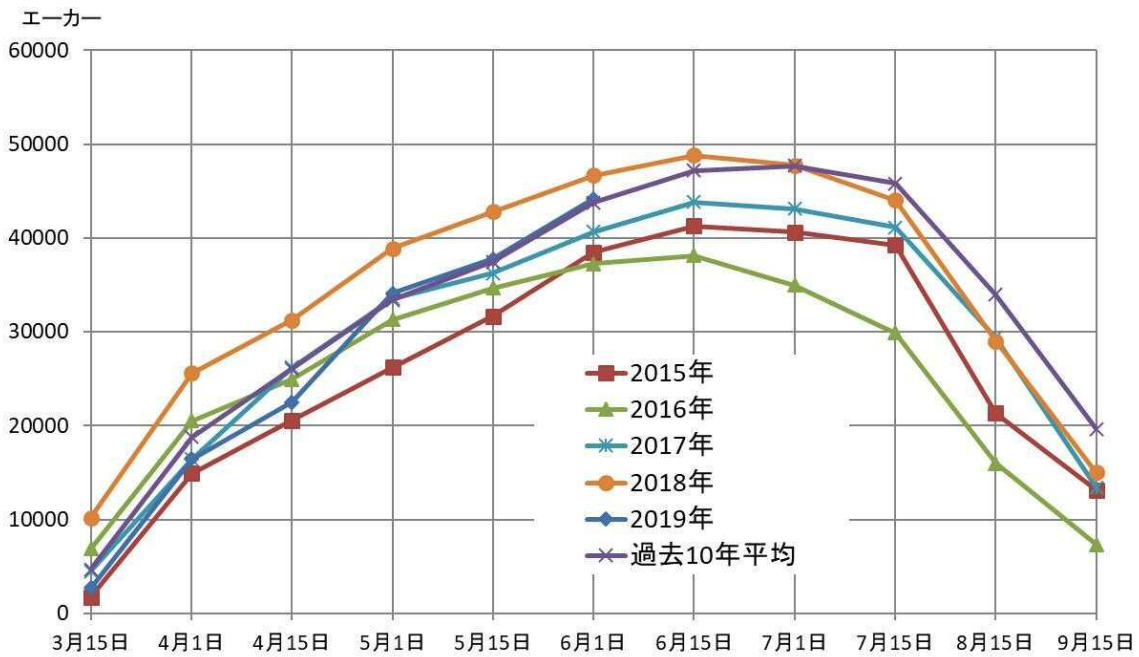
19年産のスーダンの収穫作業は5月下旬からスタートしています。

19年産スーダンは春先に冷涼な気候が続いたことにより、昨年に比べ2－3週間ほど生育状況が遅れていました。しかしながら、ここに来て気温も上昇してきたことから、7－10日ほどの遅れまで回復しているところ です。

6月1日時点の作付面積は昨年同期比95%の44,162エーカーとなっています。今後、デュラム小麦を収穫した後の圃場への作付が進むと見込まれることから、最終的な作付面積は昨年と同程度になるものと予想されています。

18年産スーダンは、種子の価格が高騰、種子の供給量も十分でなかったことから、通常よりも種子の播種量を抑える生産者が多く、また、気温も高温と低温を繰り返す不安定な気候であったことが、茎のサイズが不揃いで、茶葉の混入割合が例年よりも多くなる傾向にありました。一転して、19年産のスーダン種子相場は例年並みに落ち着いており、生産者も適切な播種密度で作付けしたことから、19年産については昨年以上に良品が発生することが期待されます。

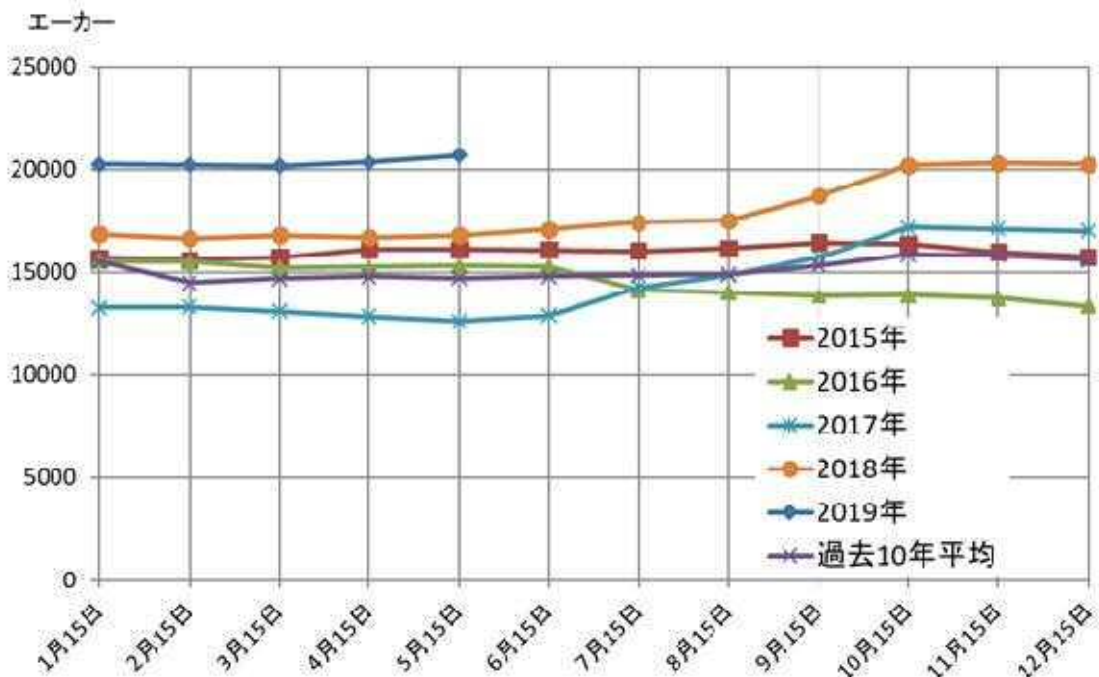
スーダンの需要は堅調に推移しており、産地には繰越在庫がほとんどない中で新穀シーズンに突入していくこととなります。新穀の収穫作業はすでにスタートしていますが、まだ新穀相場は立っておらず、新穀の相場が見えてくるには今しばらく時間が必要な状況です。



インペリアルバレー スーダングラス作付面積推移 6月1日時点 (単位：エーカー)

クレイングラス (クレインは全酪連の登録商標です)

5月15日時点の作付面積は前年同月比 123%となっています。既報の通り、好調な産地相場を背景に、作付面積は昨年同期比で大きく増加しており、19年産は生産量の増加が期待されるところです。



	1月15日	2月15日	3月15日	4月15日	5月15日	6月15日	7月15日	8月15日	9月15日	10月15日	11月15日	12月15日
2015年	15691	15605	15724	16111	16111	16086	16026	16152	16430	16372	15974	15746
2016年	15526	15501	15234	15255	15295	15262	14142	14002	13871	13896	13739	13354
2017年	13276	13296	13092	12846	12614	12901	14255	14875	15722	17159	17088	16999
2018年	16832	16628	16796	16695	16794	17071	17429	17531	18705	20193	20289	20253
2019年	20253	20213	20167	20357	20672							
過去10年平均	15504	14497	14694	14789	14726	14800	14852	14901	15322	15866	15817	15592

インペリアルバレー クレイングラス作付面積推移 5月15日時点（単位：エーカー）

19年産は5月上旬から収穫作業が始まり、現在1番刈の収穫作業はほぼ終了しており、2番刈の収穫作業も順次始まる見込みです。品質面について、1番刈は収穫期の天候にも大きな問題がなかったことから、概ね例年並みの仕上がりとなっているようです。日本および韓国からの需要は引き続き旺盛な状況が続いており、18年産の繰越在庫もないため、いくつかのサプライヤーは期近の出荷分の確保に向けて積極的に新穀の買付を行っているという情報もあり、産地相場は旧穀相場と比較して堅調な価格のまま推移しています。



新穀クレイングラス1番刈 5月30日撮影

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

ペレニアルライグラスは、現在のところ天候や成育に関して大きな変化はなく順調ですが、去年に比べ作付面積が11%ほど減少しており、生産量の低下が懸念されています。

また、オレゴン州中西部に建設されたバイオマス工場では、安価な燃料源としてアニュアルライグラスストローを使用することが計画されています。ストロー製品の供給力低下、産地価格の上昇に繋がる可能性があるとして多くの関係者が同工場の需要に注目しています。

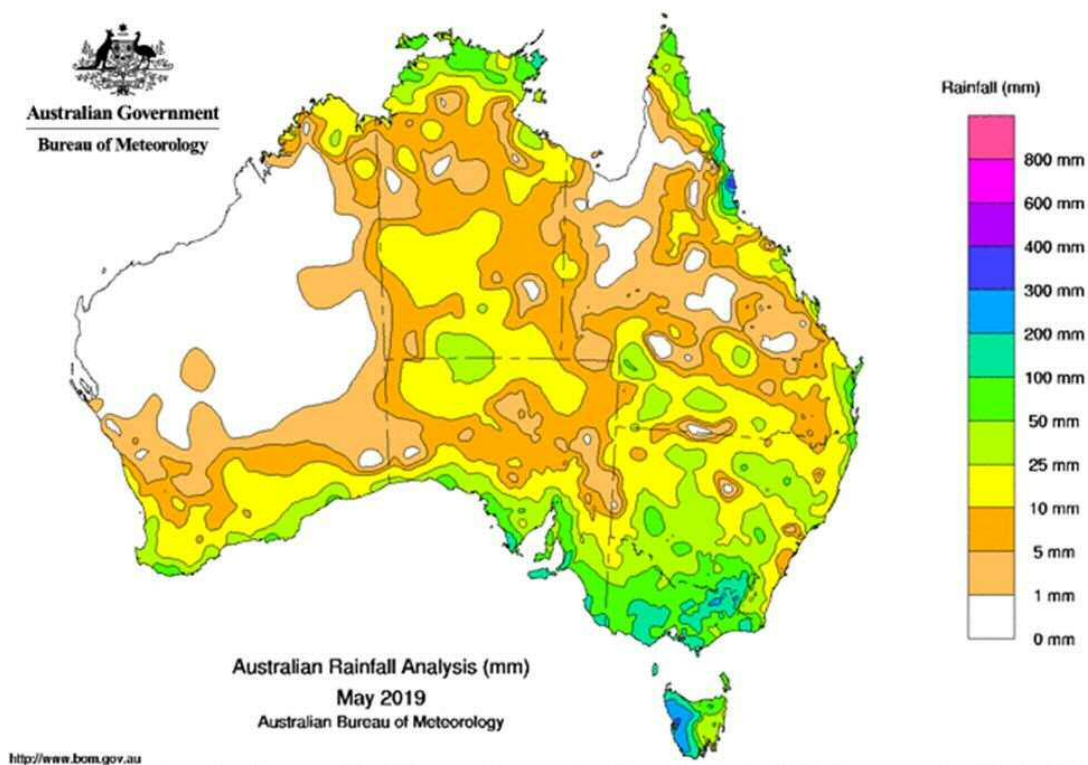
豪州産オーツハイ

豪州の各産地では2019年産の播種作業は終盤を迎えています。

東豪州および南豪州においては、圃場へのオーツの播種作業が完了した5月中旬以降、定期的に降雨があり、生育環境は良好な状況下であり、順調に生育している圃場ではすでに5cm丈までに成長している状況です。

西豪州では播種時期から6月上旬までまとまった降雨がなく、乾燥状態が続いており、土壤水分に乏しいことから地域によっては、まだ発芽すらしていない圃場もあるようです。

輸出向け需要については、韓国からはストロー等、他の禾本科牧草に需要が移ったようで引き合いがやや弱まっているようですが、中国、台湾および日本からは引き続き旺盛な状況が続いています。また、豪州国内需要も引き続き旺盛であり、特に昨夏以降旱魃状態が長く続いていた東豪州においては引き合いが強い状況にあります。旺盛な需要を背景に、産地相場は高止まりしたまま推移しています。



2019年5月の豪州における降水量（オーストラリア気象局HPより）

以上